

41. リウマチ性多発筋痛症におけるマトリックスメタロプロテアーゼ3の臨床的意義についての検討

研究の概要

リウマチ性多発筋痛症(polymyalgia rheumatica:PMR)は、高齢者に急性発症するリウマチ性疾患で、体幹、四肢近位部のこわばりと自発痛を特徴とする原因不明の炎症性疾患です。一方、マトリックスメタロプロテアーゼ3(matrix metalloproteinase-3;MMP-3)は、様々な、細胞外マトリックスの構成成分を破壊することで、軟骨および骨の破壊に関与する酵素です。MMP-3は、関節リウマチ(rheumatoid arthritis;RA)患者において骨破壊、身体障害の予測因子であることが証明されています。PMRにおいてもRAと同じくMMP-3が上昇することが知られていますが、臨床的意義は明確ではありません。

研究の目的と方法

今回の研究は、PMRにおけるMMP-3の臨床的意義を明らかにすることを目的としています。本研究では、2011年4月1日～2017年12月31日に国立病院機構熊本医療センターを受診された患者さまのうち、①PMR診断基準(Birdら)を満たし、抗CCP抗体陰性(<0.6)である、②診断時にMMP-3を測定している方を対象としています。日常診療で得られた臨床データ(年齢、性別、検査内容、検査値、最終診断、治療状況、転帰)を電子カルテから集計いたします。

本研究の参加について

これにより患者さまに新たな検査や費用の負担が生じることはありません。また、研究で扱う情報は、個人が特定されない形で厳重に扱います。ご自身のデータを本研究に使わないでほしいと希望されている方、その他研究に関してご質問がございました際は、末尾の問い合わせ先までご連絡ください。

調査する内容

本研究は、新たに試料・情報を取得することではなく、既存カルテ情報のみを用いて実施する研究です。研究対象者(患者さま)の個人情報(氏名、住所、電話番号、カルテ番号など)は、記載せず、対応表を作成して管理しますので個々じょうほう

調査期間

研究期間：2018年12月1日～208年12月31日（調査対象期間：2011年4月～2017年12月）

研究成果の発表

調査した患者さまのデータは、集団として分析し、学会や学術論文で発表いたします。また、個々の患者さまのデータを発表するときも、個人が特定されることはありません。

研究代表者

総合診療科 辻 隆宏

当院における研究責任者

総合診療科 辻 隆宏

問い合わせ先

総合診療科 辻 隆宏

TEL: 096-353-6501